

露伴全集

第三十三卷

露伴全集

第三十三卷

昭和三十年三月十五日第一刷發行
昭和三十年八月二十日第二刷發行

露伴全集第三十三卷

領價八百五十圓

複製本

著作權者

幸かう

田だ

文あや

編纂

蝸くわ

牛ぎう

會くわい

發行者

東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地
岩波雄二郎

印刷者

東京都青梅市根ヶ布三八五番地
山田一雄

印刷所

東京都青梅市根ヶ布三八五番地
精興社

東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地

發行所

株式會社

岩波書店

電話(代表)九段(33)八四八六番
探巻口座東京二六二四〇番

目次

國譯忠義水滸全書

後記

國譯忠義水滸全書

解題

水滸傳は宋の宋江等の事を記す。其事未だ必ずしも實存せず、而も其文自づから奇趣あり。是を以て大に世に行はれ、傳へて今に至り、人皆支那小説中の巨擘と爲す。蓋し誣ひざる也。然りと雖も其の何人の手に成りしか、何の地と何の時とに於て出でしかに至つては、猶確説無し。文献の徴するに足るもの有らざればなり。

水滸傳の記する所の事、未だ必ずしも實存せずと雖も、小説の體、多くは實に因りて虚を演じ、眞を假りて奇を出す。宋江等の事、また全く空華幻像のみならざるなり。

宋史卷二十二。徽宗本紀記す。宣和三年。淮南の盜宋江等、淮陽軍を犯す。將を遣はして討捕せしむ。又京東江北を犯し、楚海の州界に入る。知州張叔夜に命じて之を降す。

又宋史卷三百五十一。侯蒙傳記す。宋江京東に寇す。蒙書を上り言ふ、江三十六人を以て齊魏に横行す、官軍數萬、敢て抗する者無し。其才必ずや人に過ぎん。今清溪に盜起る。若かず江を赦して、方臘を討たしめ、以て自から贖はしめんにはと。帝曰く、蒙や外に居りて君を忘れず、

忠臣也と。命じて東平府に知らしむ。未だ赴かずして卒すと。

又宋史卷三百五十三。張叔夜傳に記す。叔夜又蔡京の忌む所と爲り、徽猷閣待制を以て、再び海州に知たり。宋江河朔に起り、轉じて十郡を略し、官軍敢て其鋒に嬰る莫し。聲言す將に至らんとすと。叔夜間者をして向ふ所を覘はしむ。賊徑ちに海瀕に趨り、鉅舟十餘を劫かし、鹵獲を載す。是に於て死士を募り、千人を得、伏を設けて城に近くし、而して輕兵を出し、海を距て、之を誘ひ戰ひ、先づ壯卒を海旁に匿し、兵の合ふを伺ひ、火を擧げて其舟を焚かしむ。賊之を聞き、皆鬪志無し。伏兵之に乗じ、其副賊を擒にす。江乃ち降る。

三十六人を以て齊魏に横行すと云ひ、河朔に起り、轉じて十郡を略すと云ふ、江の大盜たりしこと、知る可き也。

宋江等既に實に是の如くなる有り、是に於て雜書俗談の、江等の事を傳ふるもの、蓋し當時に起れるも亦想ふ可し。宣和遺事は江の事を記して今存せる者の其一なり。遺事二卷、徽宗欽宗の時の事を記す。實錄に似たりと雖も、小説と謂ふ可し。其宣和四年の條、楊志等花石綱を押して限に違ひ、衛州に配せらるゝの事、孫立等楊志を奪ひ、太行山に往きて落草する事、宋江閻婆惜を殺すに因りて、往いて晁蓋を尋ぬるの事、宋江天書三十六將の名を得るの事、宋江三十六將共に反するの事、張叔夜宋江三十六將を招きて下すの事を記す。其記する所を検するに、今の水滸傳の記する所と、出入參差

有りとも雖も、大同小異なり、而して三十六將の諱號姓名も亦水滸傳天罡星三十六員と、十の八九を同じうす。遺事と水滸傳と、脈絡無しと爲す能はざるなり。況んや又徽宗服を易へて後載門を出で、金環巷に遊ぶの事、周秀が茶肆に往いて李師師を見る事、徽宗李師師が家に宿する事等を記し、水滸傳の記する所と相關聯するあるに於てをや。水滸傳の宣和遺事に負ふあるや、明らかなりと謂ふ可し。遺事は收めて士禮居叢書に在り。學山海居主人謂へらく、卷中の惇宗、諱を避けて惇に作るを以て之を證するに、當に宋刊に出づべしと。士禮居の獲たる所の刊本の宋に出づると出でざるとは措きて論ぜず。遺事が宋人の筆に成れるは、人多く疑はず。但宋江等及び李師師の事を記するの文、遺事の他事を記するの文と、相肖ざる有るを覺ゆ。遺事或は擅入混糅あるか、是我が私に疑ふ所のみ。

癸辛雜識も江の事を記して今存せる者の其一なり。雜識前後集續集別集共六卷、宋末元初の人周密の撰する所、密は武林舊事の撰有りて人の知る所たり。雜識續集上卷に宋江三十六贊の條有りて、記して曰く、

聖聖與宋江三十六贊を作り、并に序して曰く、宋江の事の街談巷語に見ゆる、采著するに足らず。高如李嵩の輩の傳寫する有りと雖も、士大夫も亦黜しよぞくるを見ず。余年少の時、其の人を壯なりとし、之が畫贊を存せんと欲す、未だ信書に事實を載するを見ざるを以て、敢て輕かろしく爲さず。

異時東都事略中に侍郎侯蒙の傳に、書一篇有り、賊を制するの計はかりごとを陳ぶるを載す。云ふ、宋江

三十六人を以て、河朔京東に横行し、官軍數萬敢て抗する者無し、其材必ず人に過ぐる有らん、
あやまち過を赦し招降し、方臘を討たしめ、此を以て自から贖はしむるに若かず、或は東南の亂を平ら
 ぐ可しと。余然る後、江が輩眞に時に聞ゆる者有りしを知る。是に於て三十六人に即いて、人ご
 とに一贊を爲る、而して箴體在り。

文長きを以て省く。意は江を盜跖に比し、而して江と跖とを壯とし、世の亂臣賊子の影を畏れて自
 ら走るものを譏るに在り。其の所謂三十六人贊、辭藻と理義と、共に觀る可き無く、又事跡の徵知す
 可き有る無しと雖も、宣和遺事と此書と、三十六人の諱號姓名を載すること最も早きを以て、兩書を
 水滸傳に比して一看すれば、又以て古今の漸く變移せるを知る可し。

癸辛雜識

宣和遺事

水滸傳

呼保義	宋江	(員外)	宋江	(一)	呼保義	宋江			
智多星	吳用	(一)	智多星	吳用	字加亮	(三)	智多星	吳用	字加亮
玉麒麟	盧俊義	(二)	玉麒麟	李進義	(二)	玉麒麟	盧俊義		
大刀關勝	(三)	大刀關必勝	(五)	大刀關勝					
活閻羅	阮小七	(九)	活閻羅	阮小七	(三)	活閻羅	阮小七		
尺八腿	劉唐	(大)	赤髮鬼	劉唐	(二)	赤髮鬼	劉唐		

沒羽箭張清

(二六)

沒羽箭張清

(二六)

沒羽箭張清

浪子燕青

(二八)

浪子燕青

(二八)

浪子燕青

病尉遲孫立

(二四)

病尉遲孫立

(員外、地煞星)

病尉遲孫立

浪裏白跳張順

(七)

浪裏白條張順

(三)

浪裏白跳或作條張順

船火兒張橫

(三四)

火船工張岑

(二八)

船火兒張橫

短命二郎阮小二

(二)

短命二郎阮進

(二七)

立地太歲阮小二

花和尚魯智深

(二九)

花和尚魯智深

(三)

花和尚魯智深

行者武松

(三)

行者武松

(四)

行者武松

鐵鞭呼延綽

(三一)

鐵鞭呼延綽

(八)

雙鞭呼延灼

混江龍李俊

(四)

混江龍李海

(二六)

混江龍李俊

九紋龍史進

(五)

九紋龍史進

(二三)

九紋龍史進

小李廣花榮

(二五)

小李廣花榮

(九)

小李廣花榮

霹靂火秦明

(八)

霹靂火秦明

(七)

霹靂火秦明

黑旋風李逵

(四)

黑旋風李逵

(二二)

黑旋風李逵

小旋風柴進

(五)

小旋風柴進

(十)

小旋風柴進

插翅虎雷橫

(三) 插翅虎雷橫

(三五) 插翅虎雷橫

神行太保戴宗

(三二) 神行太保戴宗

(三) 神行太保戴宗

先鋒索超

(三二) 急先鋒索超

(九) 急先鋒索超

立地太歲阮小五

(十) 立地太歲阮小五

(三九) 短命二郎阮小五

青面獸楊志

(三) 青面獸楊志

(七) 青面獸楊志

賽關索楊雄

(二三) 賽關索王雄

(三二) 病關索楊雄

一直撞董平

(九) 一撞直董平

(五) 雙鎗將董平

兩頭蛇解珍

缺

(三四) 兩頭蛇解珍

美髯公朱仝

(二二) 美髯公朱仝

(二) 美髯公朱仝

沒遮攔穆橫

(二七) 沒遮攔穆橫

(三四) 沒遮攔穆弘

拚命三郎石秀

(三三) 拚命三郎石秀

(三三) 拚命三郎石秀

雙尾蝎解寶

缺

(三五) 雙尾蝎解寶

鐵天王晁蓋

(三六) 鐵天王晁蓋

(員外) 托塔天王晁蓋

金鎗班徐寧

(六) 金鎗手徐寧

(六) 金鎗手徐寧

撲天鵬李應

(七) 撲天鵬李應

(七) 撲天鵬李應

(六) 入雲龍公孫勝

(十三) 豹子頭林冲

(三五) 摸著雲杜千

(晁蓋死後入員) 摸著青張橫

(四) 入雲龍公孫勝

(六) 豹子頭林冲

(員外、地煞星四十七) 摸著天杜遷

此中水滸傳は短命二郎を以て阮小五の諱號あだなと爲し、雜識は阮小二の諱號とし、遺事は阮進の諱號とす。阮進まさに阮小二なるべし。短命二郎の諱號の二郎は、灌口二郎とは相關せず、阮氏の二郎なるを以て、短命二郎の諱號を得たるなるべし。拚命三郎石秀は、排行第三なるを以て、其諱號を得たるなり。水滸傳の阮小五を以て短命二郎と爲すは、甚だ理無し。無識の徒、説話を業とする者の、傳承の誤ならん。又劉唐の諱號、尺八腿、赤髮鬼、字異にして音近し。是説話者の口耳相傳ふるの久しき、是の如きを致し、而して後髮緒きの談を生ずるに至れるならん。李進義、盧俊義も、字異にして音近し。楊雄、王雄、亦然り。杜千、杜遷は字異にして音同じ。穆橫、穆弘も、字異に音異なりと雖も、連聲一呼すれば、亦其甚だ相近きを見る。是皆水滸傳の、刊本未だ有らざる時、説話者流に依りて傳へられたるを語るものにあらずや。癸辛雜識は明の毛晉の刻する所の津逮祕書中に收められて現存す。龔聖與の贊辭、考ふるに足るもの無し。たゞ浪子燕青の贊、

平康巷陌、豈知ニ汝名一、大行春色、有ニ一丈青一、

といふもの、指す所何事ぞや、疑ふべし。大行は山の名たること明らかなり、一丈青は草萊秀穡の状をいふか。宣和遺事、一丈青張横あり。水滸傳、一丈青扈三娘あり。贊辭の一丈青、此と相關する無かる可しと雖も、一丈青の諱號、扈三娘に始まらざるを知るべし。董平の諱號は、雜識一直撞に作り、遺事一直撞に作る。一直撞は、直往撞突して遲疑せざるなり。水滸傳の敘する所の董平の性質亦然り、其雙鎗を用ふるを以て、改めて雙鎗將となすと雖も、舊號の意測るべし。摸著雲、摸著天、意殆ど異ならず、水滸傳に在りては、杜遷能無くして員に備はるのみなりと雖も、猶梁山泊草創の人たり、早くより話中の人たるを猜知すべし。凡そ雜識と遺事との記する所を考ふるに、今の水滸傳の成るの以前、宋江等羣盜譚ありて、雜識の所謂街談巷説なるもの、宋の時より既に說話者流の間に喧説され、而して其談る所、本幹異ならずと雖も、枝葉自から同じき無かりしを察す可きなり。

宋の時に於て說話者流の盛行せしは、雜籍の之を證する者多し。陶宗儀の輟耕錄に、宋に戲曲唱、諱詞説有りと云へるもの、其諱詞説は即ち說話者流の説話なり。孟元老の東京夢華錄に京瓦を敘して、講史、小説、説評話、説三分、五代史等を挙げたる、其講史以下は即ち皆說話者流の説話なり。耐得翁の都城紀勝の瓦舍衆伎の條に記す。説話に四家有り。一には小説、之を銀字兒と謂ふ、烟粉靈怪傳奇の如し。説公案、皆是搏刀趕棒、及び發跡變泰の事。説鐵騎兒、士馬金鼓の事を謂ふ。説經、佛書を演説するを謂ふ。説參、賓主參禪悟道等の事を謂ふ。講史書は前代書史文傳興廢爭戰の事を講説す、

最も小説人を畏る、蓋し小説は能く一朝一代の故事を以て、頃刻間に提破すればなりと。此中説公案は我邦の大岡政談の如き、裁判訴訟の談、所謂公事讀みなり。小説を話する者と一家たるに似たり。説鐵騎兒は、我邦の關原姊川河中島戰記の如き、戰場馳驅の談、所謂修羅場讀みなり。説經説參は自から科を同じうす、一家たり。故に銀字兒、鐵騎兒、説經、説史共に四家たるなり。周密の武林舊事に載す。演史二十三人、説經譚經十七人、小説五十二人、説譚話一人と。當時の説話者の多くして、説話の盛行せる知るべし。水滸傳中亦李逵と燕青との瓦舍に就いて説話を聽くを記す。其聽くところは、蓋し説三分にして、三國の史を講ずるなり。宋時の説話の盛なる是の如し。而して此伎傳へて元に及び、明に及び、清に及び、今に至りて亡びず。餘波又我邦に及びて、徳川氏の時より今に至りて猶存す。明末の柳敬亭の如きは、桃花扇傳奇に出づるを以て人の知る所となる。蓋し説話者中の錚々たる者にして、烏有の人にあらず。吳梅邨の柳敬亭傳に徵するに、當時柳生と江湖の間に先後する者、廣陵の張樵、陳思、姑蘇の吳逸、各其家に名ありしといふ。柳生等四人、一微技を以て名を存して今に至る、思ふに宋遼金元明清の間、其技の盛にして、而して技を以て一時に鳴りし者も、亦輩出せること知りぬ可し。世に傳ふるところの演義三國史は、蓋し此等説話者流の談するところ、即ち説三分者以來の所説の堆積集合して成れるものにあらずや。東坡志林既に俗の三國史を説けるを記す、其の夙に三分天下の事の、説話者流の齒牙に掛けられ、唇舌に上されて、興趣甚だ饒きものと爲されたる

や想ふべきなり。宋江等の事、蓋し又宋の時より説話者流の一好話頭となり、唇鼓舌弄の日月漸く久しくして、而して後所謂水滸傳なるもの成る有るに至りしに非る莫きを得んや。初や其書無くして其譚有り、口語り耳聴き、而して心記して復口發す。故に歳時の漸く遷るや、李進義と盧俊義と、楊雄と王雄と、尺八腿と赤髮鬼と、誰かそれ能く雌雄を知り、眞譌を辨ぜん。

且又宋の時の民庶娛樂の伎、たゞ説話のみならず、傀儡も亦事を傳へ、影戲も亦事を傳へ、而して人の頤おたごひを解たき掌たてこころを拊せしめんとするものなり。耐得翁記して曰く、弄懸絲傀儡、杖頭傀儡、水傀儡、肉傀儡、凡そ傀儡は煙粉靈怪の故事、鐵騎公案の類を敷演すと。弄懸絲傀儡は我が所謂操り人形なり。黒織絲の人の賭難きものを傀儡の手脚頭腰に付して、其上に吊りて懸け、以て運動舉止せしむ、故に弄懸絲傀儡といふ。杖頭傀儡は我が所謂でくる坊にして、人其足を持つを以て、彼の俗に捏脚摳と謂ふもの、偶人杖頭に在るを以て杖頭傀儡といふ。水傀儡は、其製たる偶人を用ひ、板上に立て、大池面に浮ばしめ、屏を用ひて其下を障へ、而して機を以て之を運するなり。水上に浮ばしむるを以て之を水傀儡といふ。肉傀儡は偶人に代ふるに小兒後生を以てするなり。土偶木偶を以てせずして人を以てす、故に肉傀儡といふ。傀儡は本喪樂もつとに出づるも、後に至りて戲となる。宋の時、其盛行せしは、武林舊事も亦之を記す、獨り都城紀勝の記するのみならざるなり。耐得翁既に煙粉靈怪の故事、鐵騎公案の類を敷演すと云ふ、即ち其演ずるところの小説に近きを知る可し。然らば則ち誰か傀儡も

亦或は宋末以後、宋江等の事を敷演せざるを知らんや。

影戲は京師の人に出づ。紀勝記して曰く、凡そ影戲は、初め素紙を以て雕鏤す、後に彩色を用ひ、裝皮して之を爲る、公忠の者は雕するに正貌を以てし、姦邪の者は雕するに醜貌を以てす、其話本は史書を講ずる者と正に同じと。然らば則ち影戲を爲す者の、其説く所は說話者流と同じきなり。影戲は我が邦近時存せしところの、所謂紙しばるなり。青藤山人路史に記す、影戲は漢の武帝李夫人の事に始まる、宋の仁宗の時、市人能く三國の事を談ずる者有り、或は其事を采り、縁飾を加へ、人影を作し、始めて魏蜀吳戦争の象を爲すと。孟元老の夢華錄によれば、董十五、趙七、曹保義、朱婆兒等あり、善く影戲を弄したりしことを知る。宋末影戲の社を繪革社といふ。既に三國志を演ずと云ひ、話本は史書を講ずる者と正に同じと云ふ。いづくんぞ影戲も亦或は宋江等の事を傳へざるを知らんや。陶真、説書、傀儡、影戲、或は宋に起り或は宋に盛なり、此等皆意を肆にして事を傳ふ。所謂水滸傳天罡地煞の談、此等の間に枝を生じ葉を展べ花を發し實を結び、終に蔚然たる一大樹を成すに至れるか、必らず然りといふ能はずと雖も、又必らず然らずと謂ふ能はざるなり。

演義三國志は何の時に於て何の人の撰する所にかゝるを知らず。或は謂ふ羅貫中これを撰すと。然れども俚俗小説の羅の撰にかゝると云ふ者も多し、水滸傳も羅の撰といひ、平妖傳も羅の撰といふ、皆信するに足らず。西遊記は流布本儼然として署して邱長春の撰といふ。然りと雖も、邱長春の西遊